

保護者の皆様

練馬区立光和小学校
校長 矢島 直行

令和7年度 練馬区立光和小学校 学校評価報告書

本年度の教育活動を振り返り、本校の課題がどの程度解決できたかを自己評価するため、保護者・児童・コミュニティスクール導入委員・地域・教員にアンケートを実施しました。その結果と分析、保護者の意見を以下のようにまとめました。

1. 自己評価

※本年度、保護者の皆様からの学校評価アンケートの回収率は78% (588名)でした。※昨年度70% (569名)
◎各項目の数値は%です。表の中の数字は、AとBの合計の数値です。

○Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない Dほとんどあてはまらない Eわからない(保護者・コミュニティスクール導入委員・地域・教職員)のうちA及びBの評価の割合
○Aよくあてはまる Bあてはまる Cあまりあてはまらない Dわからない(児童)のうちA及びBの評価の割合

三者による学校評価アンケート結果	保護者			低学年			高学年			コミュニティスクール (学校運営協議会)			教職員			◇学校の自己評価 ☆学校の来年度の取組		
	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差			
	588名	569名		347名	339名		379名	368名		10名			25名	24名				
学校全体について	1	【学校の教育目標】 ○学校の教育目標や目指す学校像は、子供や地域の実態に合った適切な内容となっている(保護者・地域・教職員)	94	92	+2						90	100	-10	100	100	0	◇昨年度に引き続き保護者、教職員共に肯定的な評価が高くなっており、学校の指導の重点は子供や地域の実態にあったものとなっている。 ☆今後とも全教職員が共通理解を図り、全教育活動を通じて知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな子供の育成に努めます。	
	2	【学校生活の様子について】 ○子供たちの学校での様子は楽しそうである(保護者、地域、教職員) ○学校は楽しいですか(児童)	97	95	+2	89	91	-2	87	81	+6	100	100	0	100	100	0	◇昨年度に引き続き保護者、児童の肯定的な割合が高くなっている。今後とも子供たちにとって楽しく充実した教育活動に取り組んでいくように努める。 ☆担任をはじめ、専科教員、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員等、全教職員が一体となり組織として、児童の様子には十分気を付け一人一人をしっかり見ていくように努めます。
	3	【学校生活の様子について】 ○子供たちは仲良く、学校生活を送っている(保護者、地域、教職員) ○あなたは、友達と仲よくしていますか(児童)	94	95	-1	93	94	-1	93	91	+2	100	100	0	100	96	+4	◇保護者、児童、コミュニティスクール、教職員の評価は肯定的な割合が高水準で維持している。今後とも自他のよさを認め互いに尊重する態度を育んでいく。 ☆学級や学校生活を充実させ、教師と児童の信頼関係及び児童相互の好ましい人間関係を確立し、一人一人の人格を尊重するとともに学級経営・学習指導の充実を図ります。
	4	【教職員の対応について】 ○教職員は誠実に子供や保護者(地域の方)に接している(保護者、地域、教職員) ○先生たちはあなたのことを考えたり、話を聞いたりして接してくれますか(児童)	95	96	-1	81	89	-8	84	86	-2	100	100	0	100	97	+3	◇保護者、児童の肯定的な評価の割合は高水準であるが、やや低下傾向である。特に、低学年で顕著となっている。今後より一層子供と保護者の思いや願いをしっかりと受けとめるように努める。 ☆教職員間の連携を密にしながら、迅速かつ適切に子供の思いを受けとめるように努めます。
	5	【学校生活の様子について】 ○子供たちは、進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりしている(保護者、地域、教職員) ○あなたは、すすんであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりしていますか(児童)	66	66	0	80	74	+6	76	75	+1	100	80	+20	24	29	-5	◇昨年度と比べて児童、コミュニティスクールの肯定的な評価の割合が高くなった。あいさつ運動等の取り組みの成果である。これが保護者にも伝わるよう、今後とも重点的に指導をしていく必要がある。 ☆あいさつ運動を計画的に行うとともに、学校と家庭、地域とが連携しながら取り組んでいきます。
	6	【学校と保護者・地域の連携について】 ○保護者は全体的に学校に協力的である(保護者・地域・教職員)	87	85	+2							90	80	+10	88	92	-4	◇保護者や地域の方から学校の教育活動に理解を示し、惜しみない支援をいただいている。PTAの活動等を発信し更に周知していく必要がある。 ☆今後とも家庭・地域との連携・協力を重視し、地域に開かれた取組を推進します。学校だよりやホームページ等を通して情報を発信しながら、学校、家庭の教育力を最大限に発揮できるように教育活動を進めます。
	7	【学校の教育環境について】 ○学校の教室や廊下、特別教室、校庭などの環境整備は行き届いている(保護者、地域、教職員)	97	97	0							100	100	0	100	96	+4	◇保護者、コミュニティスクール、教職員と共に肯定的な評価の割合が高い。今後とも安全・安心できる教育環境に努めていく必要がある。 ☆今後とも校舎、校庭、校内施設・設備の安全点検を実施するとともに、子供たちの清掃活動の充実を図り、安全で安心して気持ちよく学習できる環境の整備に努めます。
学習指導について	8	【学習について】 ○学校は、子供の学力の定着・向上のために工夫した授業を行っている(保護者、地域、教員) ○学校の勉強は、分かりますか(児童)	88	87	+1	90	91	-1	95	94	+1	90	90	0	100	100	0	◇保護者、児童、コミュニティスクール、教職員共に肯定的な評価の割合が高水準で維持している。引き続き子供たちにとって分かる授業となるよう授業改善に努めていく必要がある。 ☆児童一人一人を見取り、教職員が一丸となりよく分かる授業となるように指導方法を工夫改善し、指導の充実を図ります。
	9	【生活指導】 ○授業は、話の聞き方や発表の仕方等の学習のルールが守られており、落ち着いた雰囲気の中で学習が進められている(保護者、地域、教員) ○あなたは、学校のきまりを守って、落ち着いて勉強や生活をしていますか(児童)	90	90	0	83	79	+4	78	79	-1	90	90	0	100	92	+8	◇保護者、コミュニティスクール、教職員の肯定的な評価は高いが、児童の肯定的な評価はそこに及ばない。肯定的な評価の割合を高めるために、さらに自主性、自律性、規範意識を高める手だてを講じて、それを児童が実感できるようにする必要がある。 ☆一人一人の人格を尊重しながら規範意識を育む等、また、授業では道徳を中心に、社会的資質や行動力を高めるため、学級経営の充実を図ります。また、児童と教職員が光とスタンダードを共通理解し、ルールを学校として徹底します。
	10	【少数指導】 ○1・2年生の算数TT指導や3年生以上の算数少数指導は学習の定着に効果をあげている(保護者、地域、教員) ○算数の少数の授業は、よくわかりますか。(児童)	72	71	+1	88	93	-5	91	92	-1	80	80	0	88	83	+5	◇保護者で分からないという割合が23%である。少数授業で取り組んでいる指導方法を発信していく必要がある。 ☆引き続き学習内容の習熟の程度に応じた指導方法や指導体制を工夫改善し、指導の充実を図ります。また、参観などを通して少数指導の取り組みについて理解していただけるよう努めます。

	四者による学校評価アンケート結果	保護者			低学年			高学年			コミュニティスクール委員			教職員			◇学校の自己評価 ☆学校の来年度の取組	
		今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差	今年度	昨年度	差		
		588名	569名		339名			368名			10名	10名			24名			
学習指導について	11	【地域】 地域を活用した学習(まちたんけん、農業体験、地域の人材活用など)は効果をあげている(保護者、地域、教職員)	92	87	+5												◇児童、教職員で肯定的な評価の割合が高い。ただ、分からないという割合が保護者で7%であり、以前と比べて大きく改善している。さらに理解していただけるよう、引き続き学校の取組を発信していく必要がある。 ☆コミュニティスクールと連携しながら、今後とも地域性を生かした体験的な活動やゲストティーチャーの活用を通して、地域に根ざした学校づくりを進めます。	
	12	【タブレット】 一人一台のタブレット端末の活用は効果をあげている(保護者、地域、教職員)	66	62	+4												◇活用の効果について保護者の肯定的な評価の割合が低い。分からないという割合が15%である。今後とも学校の取組を発信しながら、ICT機器を効果的に活用した授業の工夫、改善に取り組む必要がある。 ☆児童にとって分かる授業づくりに向け、ICT教育を計画的に推進していきます。	
	13	【道徳教育】 ○学校では、道徳の時間を含めた全教育活動をとらえて、命を大切にすることや思いやりの心をもつ指導に努めている(保護者、地域、教職員) ○あなたは命や人の気持ちを大切にしていますか(児童)	86	84	+2	91	87	+4	91	90	+1	90	90	0	92	93	-1	◇保護者で肯定的な評価が高く、児童も命を大切にすることや思いやりの心について肯定的な評価の割合が高い。 ☆道徳の時間の指導方法の工夫・改善を行うとともに、授業公開や道徳授業地区公開講座において道徳教育について家庭や地域との連携を深め、実践できるように努めていきます。
	14	【特別活動】 ○行事などでは、友達と協力したり、一人一人の個性が発揮されたりするような場が設定されている(保護者、地域、教職員)	94	91	+3												◇昨年度に引き続き、保護者、児童ともに評価が高まった。今後とも一人一人のよさや個性が発揮できるように取り組んでいく必要がある。 ☆学校行事を年間の中にバランスよく配置し、一人一人のよさや個性を発揮できる内容を工夫します。	
	15	【特別活動】 ○学校は、学校行事やクラブ活動、児童会活動等の活性化に努めている(保護者、地域、教職員) ○運動会や学習発表会などの行事やクラブ活動・児童会活動は楽しいですか(児童)	89	88	+1	88	91	-3	92	91	+1	90	90	0	88	92	-4	◇昨年度に引き続き、保護者、高学年児童の評価が高まった一方、低学年児童の評価がわずかに下がった。今後とも一層主体的に学校行事を含めた特別活動の充実を図っていくとともに、それが低学年にも実感できるようにする必要がある。 ☆学校行事及び特別活動に主体的に参加できるようにし、自発的な活動を促し、個性の伸長を図り、所属感、責任感及び特別活動の内容、方法の充実に努めます。
	16	【学校公開】 授業参観や学校公開日、各種行事の実施日は、保護者や地域の方ができるだけ参加しやすい曜日に設定されている(保護者、地域、教職員)	95	96	-1												◇土曜日授業公開を4回実施。保護者の肯定的な評価の割合が高いまま推移している。今後とも参加しやすいようにすることが必要である。 ☆年4回(6月、9月、11月、2月)の第二土曜日の学校公開日とともに、各種行事を年間にバランスよく配置し、保護者や地域の方が参加しやすいようにします。	
発信、連携	17	【危険予知、回避】 ○学校は、事件や事故を未然に防ぐために、具体的な取組(保護者や教職員の名札の着用、情報モラル講習会、引渡し訓練)や避難訓練の充実に努めている(保護者、地域、教職員)	89	87	+2												◇保護者、コミュニティスクール、教職員共に肯定的な評価の割合が高い。今後とも適切な行動選択ができる指導の充実に努める必要がある。 ☆全教職員が共通理解を図り、地震、火災、気象等、防災に関する指導の充実に努めます。委員会活動では環境安全委員会を新設し、子供たちとも取り組んでいきます。また、地震等、非常災害時に避難拠点運営連絡会と連携しながら行動ができるようにします。	
	18	【学校と保護者・地域の連携】 ○学校は家庭や地域との連携に積極的に取り組んでいる(保護者・地域・教職員)	89	83	+6												◇肯定的な評価の割合が高い。今後とも積極的に関わられるように努力していきたい。 ☆PTAとの連携をはじめ、青少年育成委員会主催の行事、町会の行事等の参加を通して、学校と地域との連携を深めていくように努めます。	
健康教育	19	【学校と保護者・地域の連携】 ○学校は保護者や個人面談、学校便り、ホームページなどを通して、学校や子供たちの様子を分かりやすく伝えている(保護者・地域・教職員)	90	89	+1												◇保護者、地域の肯定的な評価の割合が高い。引き続き情報発信に努め、学校便りやホームページ、sigfyなどを活用して、分かりやすく充実した情報発信を続けていく必要がある。 ☆学校だより、学年だより、sigfyでの発信等の充実に努めるとともに、ホームページを充実させ、学校の様子については随時更新に努めます。	
	20	【健康教育】 ○学校は、子供の体力向上や健康の増進に積極的に取り組んでいる(保護者、地域、教職員) ○学校では、たくさん運動したり、健康に気を付けたりして生活していますか(児童)	78	75	+3	88	88	0	83	80	+3	100	80	+20	68	79	-11	◇今年度充実させた運動会や短縄取り組み週間等の取り組みなどによると考えられる肯定的評価を踏まえ、今後もさらなる体力向上や健康の増進に取り組む必要がある。 ☆計画的・具体的な取り組みを行うとともに、家庭との連携を図るよう努めます。
小中一貫教育	21	【小中一貫教育】 ○小・中学校間の円滑な接続を図るために小中一貫教育を推進し、有効な取り組みが行われている。(保護者、地域、教職員)	42	38	+4												◇小中一貫教育について分からないとする保護者の評価の割合が39%であり、依然理解が広がっていない。学校ホームページ等で活動を紹介するなどにより昨年度より改善されたが、引き続き取組内容を練馬区のリーフレット、学校だよりやホームページで発信していく必要がある。 ☆小中学校間で授業規律や生活指導についての共通理解を図っています。また、授業・部活動体験等、児童・生徒が交流し、人間関係や経験を広げるとともに、スムーズに中学校に進学できるように取り組んでいます。これら野取り組みについて、多くの方に知っていただけるよう努めます。	